

# ホフマンク。

## 希望



ドイツ炭坑夫の手によって書かれた劇  
“分裂に苦悶するドイツの現実から立上る人々”



作者 ハンス・ハルトラング

（右）後にみえるのが西独地区と東独地区の境にあるブランデンブルク門

### 希望はこうしてつくられた

昨年八月、スイスのコッで開かれたMIRA大会に、各国代表にまじって西独、東独地方の炭坑夫たちが多数出席していた。その中の一入、ハンス・ハルトラングが分裂した東独の現状を直視、これではならぬと真情のほとばしるままに書いたのが、劇・希望である。彼は劇を書いた動機についてこう語っている。

「大会を通して私のような一炭坑夫にも世界的使命があるのだということを知りました。」

現在の世界とドイツの最大の危機は、共産主義が日々優勢になっていくことではなく、むしろ民主主義諸国に倫理感と正義感が失われ、人びとが何が正しいかを知つてもそのために立上つて戦おうとしないことにあると思います。

私たちドイツ人は過去に間違つた思想のため多くのあやまちをおかしました。それを忘れて下さいとは言えませんが、どうか許していただきたいのです。私は過去の間違つた在り方の責任をとり、これから真の民主主義のイデオロギーで新しいドイツをきずき、新しいヨーロッパをつくるために生きようと決意しています。」

## 登場人物

## 梗概

### 第一景

ここは東ドイツの平和工場、労働者たちが「われらは親子代々奴隷だった。今こそその轡を打砕こう」と歌っている。そこへ、西独から帰ってきた同志ライバツハが激越な口調で、西独の兄弟姉妹は心臓から血がでるほど搾取されていると報告する。同志マルチンが、敵をやっつけるためには何でもしなければならぬと一派の増産を提案し、満場一致で可決される。

### 第二景

フリッツの家。フリッツが父親と帰宅する。彼は、せめて家に帰ったらいいことをいわせてくれと、日頃の不満をぶちまける。マルチンがそれを聞いてしまう。青くなった父と母はフリッツに、早急党へ行つてその発言をとりつけてきてくれとたのむ。しかしもうフリッツの心はきまっている。彼はその夜、霧にまぎれて、以前に数百万人が歩んだ道を行く。祖国の真中に引かれた境界線を越え、自由な未来をもとめて。

### 第三景

舞台はかわって、ここは西ドイツ。フリッツはある鉄鋼会社の門をくぐる。女秘書のつめたい応答に彼の心はいたむが、無事に仕事につく。

### 第一景 東 独

フリッツ 平和工場。の労働者。自由をもとめて西独にのされる。

マルチン フリッツの同志。党の役員。フリッツらを取り戻すために西独に潜入する。

ライバツハ 西独の任務を終えて帰ってきた党の幹部。その他フリッツの父、母、妹、平和工場。の労働者多数。

### 第二景(以後) 西独

フリッツ  
フリッツの父、自由。に出演している。

エデ、クラウス  
パウエル、エリー、ウラ 町の悪連隊

その他 大学教授、女秘書、鋼鉄会社従業員、学生、組合幹部、牧師、その夫人、実業家、裁判官、検事、弁護士、傍聴人、映画館の女案内人等。

## 第四景

街角のバス停留所前。一見して黒連隊とわかる青年四、五人。フリッツは彼らに、「何のために生きているのか。未来についてどう思うか。自由とはどういう価値があるんだ」と日頃なやむ問題を問う。エデの返事は思いがけないものだ。「おれたちのしたいことをするのが自由さ。大人はみな偽善者なんだ。いつそみな飯面をはいで、メチャメチャにしてやりた<sup>い</sup>。」

三人の学生が通りすぎる。早く卒業して仕事につき、金を得て家庭をつくりたい、それ以外に興味がないという。労働者がやってくる。組合の幹部はダラシがない、もっと斗争を積み重ねていくんだと声高に話しかけてくる。

フリッツの心はだんだん、鉛のように重くなる。彼がもてていたものは、こんなものだったのだろうか。

## 第五景

教堂から牧師や信者たちが出てくる。「クレムリンの主もアメリカに行つて大資本家と食事を共にしている。平和共存でいかなければそだ」と話しかけているところに、東独から来た一人の女が、「あなた方は共産主義を知らない。それは人から神への信仰をうばつて、代りに党をあたるんです」と説いても誰も耳を借そうとしない。二人の企業家はいう。

「政治の問題は政治家にまかせておけばいい。われわれはもつともうけるのだ。中共貿易も大いに結構さ。」

## 第六景

法廷の場。二人の青年が被告席についている。フリッツの顔が傍聴者席にみえる。裁判官の合同で検事は一人一人の被告について法の厳格な適用を主張、求刑する。弁護人は「青年たちは悪くならなければ世の中が流れないと教えられた。判決を下すなら彼らのすむ時代に対して下されねばならない」と全被告の無罪を要求。裁判官は有罪を宣告する。

## 第七景

アフリカ映画・自由。を上映中の映画館。その前で人びとは「こんな映画ははじめてだ。これを見て人が変つてしまふ」と話している。

エデがアフリカ人に、何故こういう映画をつくつたのかとさき。「私たちは自由を欲しているも自由、自由と叫んできた。しかし私たちはついに本当の自由とは何かが判つた。心の中の、憎しみ、恐れ、貪欲から解放されること、これが真の自由なんだ。」

それを聞くうちに、エデはふとはじめて会つたときのフリッツの真剣な眼差しと問いを思いだす。そのとき彼を嘲笑したことが、どんなに彼がつかりさせたかと深い後悔の念に打たれる。フリッツが就職した会社の女秘書もそこにいる。みなで、フリッツをおとすれようと約束する。

## 第八景

フリッツの部屋。マルチンがわざわざ東独から彼を迎えにやってくる。フリッツは、西ドイツの腐敗をいやというほど見せつけられながら、まだ望みをすてない。だがマルチンは、「おれたちのイデオロギーはいつの日か世界を支配するのだ」と、彼に帰国を迫る。だが、フリッツは、あと二十四時間だけ待ってくれとたのむ。

## 第九景

フリッツはたゞ一人絶望のあまり机の前に頭をかかえて坐っている。東からは労働者の解放を叫ぶ歌、西からはエデ、弁護士、女秘書、牧師、企業家などの言葉がつきつぎに聞えてくる。

## 第十景

フリッツがブランデンブルグ門まで来ると、そこへエデがアフリカ人はじめ、新しく友達になった人たちをつれて彼に会いに来る。彼らはフ

リッツに、それまでの冷たさをあやまり、新しい世界をつくるという目的に生きるのだと決意を語る。はじめて心のほぐれたフリッツも正産に、西に来てどんなにガツカリしたか、もうすんでのことに東独に帰るところだったと語る。一同是非マルチンにも会いたいという。そしてフリッツに四つの道義標準、正直、純潔、無私、愛にもとづく新しい生活を始めることをすすめる。

## 幕間

真の自由を見出して、晴れやかなフリッツ。

## 終幕

マルチンがフリッツの部屋に入った途端、そこにフリッツだけでなく、アフリカ人、女秘書、エデ、企業家、労働委員、牧師たちのいるのを見ておどろく。一人一人の決意をきいた彼は、もしこれが本当なら彼がやろうとしている革命は不要のものになろうと思う。彼は、憎しみによって生きていた自分の姿をみ、自分から変っていく勇氣を見出す。

「これこそ全世界が待ちのぞんでいる、あらゆる時代の最大の革命だ」と彼は信ずるにいたる。





團員に定めて挨拶する民間労働者たち、この人びとの衣服は十二世紀以来、使われていたもので当時の装束と國民の尊敬を表すもの。現在でも、儀式や祭典に使用されている。

### 炭坑夫たちの見事な演技

簡単な背景を使って、十一巻の場面をスムーズに展開するこのドラマは思想劇と呼ぶべきものであり、M R A の精神を強く訴えたもの。みる人々によってそれぞれの感想はあろうが、西ドイツの炭坑夫や労働者を中心にした出演者のいずれもが、しっかり信念を持ち、さらに素人とは思えない見事な演技力をみせるので、舞台的に大変充実したものとなっている。

(朝日新聞)

### 真の自由を追求

特筆できるのは一行の情熱的なアビールで、出演者の大部分は労働者だそうだが、その構成は十八カ国の人々からなっている。

劇後、ガンジーの係、ラジモハン・ガンジーらがあいついで「道義か暴力か」の選択を訴えかけるなど、思想戦のはげしさを印象づけている。

(毎日新聞)

### ドイツの現実

ドイツの現実を表わした『実話劇』だというだけあって衣装やメーキャップも至極あっさりしており、舞台装置も簡単です。幕間などほとんどない素早い場面の転換がテキパキと運ばれているのは場数を踏んでいるといふ感があります。

(東京新聞)



## 出演者の一人

ロベルト・ペーガホフ

### の生涯から

「私の家は代々共産主義を信じ、ヒ

トラーのもとでも主義を曲げなかったものだ。敗戦でソ連軍に捕えられたとき、内心ありがたいと思った。私はクリミアの北東にあるスターリノという炭鉱の町に送られ、そこで六カ月間、西独の秘密共産党員となるための訓練を受けた。一日八時間、弁証法や史的唯物論、ソ連邦や共産党の歴史、マルクス、レーニン、スターリン等について学習した。

われわれはまた共産主義哲学とM R A哲学とは絶対に相容れないこと、人間性は変るといふM R Aは、外務が変つて人間を変えるといふ共産主義と真向から対立することを教えられた。そしてこの危険なM R A勢力と接してはならぬという命令さうけられた。

ウクライナ地方で、ソ連の反ファシズム文化部の主催する劇、映画、文藝集団等を紹介し、ついには西独での任務を果すために家に戻ることになつた。

そこでまったく思いがけないことが起つていた。ヒトラー時代の風雨にたえ、戦後われわれの町に共産党を再建した父が、M R Aの劇を見て、家にノールウェーの元抵抗運動の斗士を泊らせ、すっかりM R Aに生きるよ

うになつていたからだ。

その時ようやく、何故ソ連の共産党は党員にM R A絶対反対の指令を出していたか理由がわかった。あとで知つたのだが、一九四九年ルール地方でのM R Aの活躍が、ルールの共産党の作戦や組織をガタガタにゆすぶるついに中央は、ルールの党幹部の四十人を除名せざるを得なくなった。そして何千人という共産党のシンパがM R Aにからとられてしまったのである。

私は猛烈に反対した。しかし私の目の前にいる父は、もはや支配的、独裁的な父ではなく民主主義者であった。また親戚をドイツの強制収容所で亡くしたフランス系ユダヤ人にもあつたが、彼はM R Aを通じて憎悪を克服していった。

私はこの世には唯物論や弁証法よりも偉大な力が存在することを認めざるを得なくなった。それは個人と社会のもつとも深い根源にある問題を解決していく力であつた。そして私は、世界の諸問題を解決するにはまず自分の方からまぢがったところを変えなければならぬことを知つた。私はこのためなら私の全精力を注ぎこもうと決意した。

希望に登場してくる一人は、東地区の共産主義をきらつて西に行く。しかしそこでも満足しない。なぜなら人々は自分本位で快樂を追つかけている。それでは共産主義をますます有利にするだけだ。私の役は秘密党員だがそのような革命家をより大きな革命家にかえるに何が必要かを是非見えていただきたい。」



### アデナウアー首相と出演の炭坑夫たち

〔昨年十一月七日 アデナウアー首相は訪英を前に出演の炭坑夫たちに次のように語った〕

「われわれドイツ人は、過去にドイツが見た事がまだ他国民の心に深い傷あとを残していることを忘れぬである。諸君は新しいドイツを代表するものだ。英国とドイツの間の高橋にはまだ溝が立ちこめている。この溝の谷間はその溝を払いつけて太橋をたたらすことだ。私は英国政府首脳とあつて話しをするが、諸君は英国民に代つて話してもらいたい。」

現在のヨーロッパの混乱した政治情勢下、特に東西に分裂されているドイツにおいては、正しい国際関係を形成していくために、思想的な明確さと道義的な基盤をもつイデオロギーが絶対に必要である。

共産主義は、マルクス以来、レーニン、スターリンなどを経て今はフルシチョフの時代と多くの段階を経過して来たが、その根柢にある全世界の支配という目標は一向変っていない。したがってわれわれは今後何十年もの間イデオロギーの戦いが続けられることを覚悟しなければならない。しかし私は、民主主義の最終的な勝利を信ずるし、フルシチョフの種の時代には、共産主義はすでに敗退しているであろうことを確信している。

国際間に正しい融合をつくるためには、先ず民族、人種あるいは国家相互の間によこたわる偏見を克服しなければならない。

M R A の提唱者フランク・ブックマン博士が、国際関係の正常化と社会正義の確立のためになしたげた偉大な貢献は、世界中の数多くの人びとの心に深くきざみつけられている。

本文は、アデナウアー首相が一月三十一日（日曜）附ニューヨーク、ジャーナル・アメリカン紙に特別寄稿したものの一部である。



フランス

ギー・モレー (フランス元首相、社会党党首)

「民主主義者として、また社会主義者として、私は欧州に正しい思想をあたえようとする諸君に感謝する。私も諸君と一体である。」

ラ・ボワ・ジュー・ノール

「劇『希望』は欧州をふたたび融合し、ダイナミックなイデオロギーをあたえようというドイツ炭坑夫たちの決意の表われである。……驚くべき完璧な演技」

イギリス

ジョン・クレイグ (コルビル製鉄常務)

「産業の時代はすぎ、われわれは今やイデオロギーの時代に入った。経営者はこのことを胆に銘じなければならない。われわれの盲目さと利己主義は産業を分裂し、国の基礎を危うくするものである。」

スイス

シュバイツァー・ツァイトウング紙

「深い感銘、強い対照、ゆたかな緊張……近代人の要求に適切」

ドイツ

ハリイ・クリスト (一九五三年東ベルリンの暴動を指導した労働者)

「この劇は東独の人びとに大きな希望をあたえるものだ。なぜならこれは西欧の人もイデオロギーに眼覚め、生き、かつ眠っていることを示すからだ。われわれは何百万人という鉄のカーテン内部の人たちに自由をあたえなければならない。」

キプロス

マカリオス大主教

「MRAは今日の世界で共産主義よりすぐれた唯一のイデオロギーである。われわれキプロス島の歴史上最も重大な時に当って、このイデオロギーをもってドイツの労働者劇が助けてくれたことに深く感謝する。」

インド

ラジモハン・ガンジー (マハトマ・ガンジーの孫)

「われわれは自由を獲得するために生命も財産もなげうってきた。その自由をまもり、国を融合し、共産主義によって奴隷化されないためには、MRAが津々湯々に行き渡らねばならぬ。このときにあたって劇『希望』の来印は最も時宜を得て必要なものである。」

日本

柳沢練造 (全造船労働組合委員長)

「私は昨年十二月、この劇がスイスで上演された時に見た。劇は淡々とした展開の中に、ユーモアと風刺をおりませて新しい時代の希望を入びとの心の中に植えつけて行く。」

特に心をひかれたのは、演技する彼ら自身が実際の労働者であることだ。

日本で必ず大きな反響を呼ぶであろう。」



ミュリエル・スミス嬢

マリアン・アンダーソンにつぐものといわれるミュリエル・スミスは、ニューヨーク生れ、フィラデルフィアのカーチス音楽院に学んだ叛逆の黒人コントラアルト歌手。

ブロードウェイでは、『カルメン・ジョーンズ』の初の主役に抜てきされ、演英してはロンドンの舞台で、『南太平洋』や『王様と私』などに活躍、一昨年はコペンハーゲン王家オペラ劇場で歌劇『カルメン』のカルメンを演じ、その豊かな声量と迫力をもって絶讃をあげた。

一方、人間としての彼女はアメリカを愛するが故に南部の人種差別を深く憂える。しかし彼女はいつか黒人も白人も皮膚の色をこえて心が結ばれることを信じて疑わない。最近ハリウッドで封切られた音楽映画『最高の経験』に主役として偉大な黒人女流教育家故ベス・シン女史を再現、あふれる情熱と誠意は観客や映画批評家の間に深い感動をよんだと伝えられている。

## 特別出演者の横顔

### コールウェル兄弟

ハリウッドのテレビ、ラジオスター。ベース、ギター、マンドリンを合奏して、世界各地の歌を三十カ国語で唄う。

彼らは一九五三年以来、歌を通じて、すべてのところのすべての人に正しい民主主義のイデオロギーをつたえ、新しい世界をつくるために、MRAの国際勢力と共に、世界の五大大陸で無報酬で活躍している。すでに、ドイツのアデナウアー首相、フィリピン前大統領マクサイサイ、ガルスニア大統領、ビルマのウー・ヌー首相、ベトナムのジエム大統領、日本の故鳩山、岸首相らに招かれて唄った。また、北イタリヤの。小さいスターリンググラード。とよばれるセスト・サン・ジョバンニでは、労働者、共産党員の家に泊りこみ、共産主義にまきこまれるイデオロギーを生きた新しいアメリカ人を代表して彼らの心をかちえた。

彼らの訪日は今回が三度目で、NHK、ラジオ東京、NETなどで全国の聴視者にもあっている。



# ジョン・ライフ

JOHN RIFFE OF THE STEELWORKERS

一労働者の歩み

ジョン・ライフ 一労働者の歩み

・新刊紹介・ ジョン・ライフ

—— 一労働者の歩み ——



ウィリアム・グローガン著

労働法研究  
社

これはアメリカの一労働者の生涯の記録である。

ジョン・ライフ（一九〇四—一九五八）はアメリカの石炭、鉄鋼その他労働者の組織に一生をささげ、晩年はCIO（産業別組織会議）の副会長として一九五二年の鉄鋼ストの解決に、また一九五五年のCIOとAFL（アメリカ労働総同盟）の歴史的な合同に貢献するなど、アメリカ労働界五巨人の一人に数えられる。彼は、「神に導かれる労働者は世界を導くであろう（ブックマン博士）」ことを信じ、アメリカと世界の労働者がその真の使命を遂げるために戦いぬいた人である。

迫害と勝利、情しみと愛につづられるこの人間記録は、そのままアメリカ労働運動発展の歴史でもある。

新しい明日のアメリカの希望をいだかせる書である。

B 六版

定価二八〇円（送料二四円）

発行 労働法學研究所

東京都千代田区九段四の十一  
電話 四六八七・四二七四五

## M R A 出版物の紹介

イデオロギーと共存 30円

イデオロギーは勝利への道 25円

全世界にわたる思想戦の実態をえがき、わが国の直面する危機に明確な解答を与える必読の書、7500万部を売りつくした世紀のベストセラー!

世界を再造する フランク・ブックマン著 450円

本書はブックマン博士の講演放送等を集めたもので1921年から今日に至るまでの変転極まりない時代に一貫して、物質主義に応えるイデオロギーを唱導し来った歴史的文献。人生の指針であり、明日の世界の行くべき道を示している。

人間の改造 ホール・キャムベル博士・ピーター・ハーワード共著 100円

人間の性格をどうしたら変えることができるか。そしていかにして国と世界を変えるか、その途を示す新しい手引き

思想は脚をもっている ピーター・ハーワード著 120円

イギリスの有名な新聞記者であった著者の真剣なる改変の叙述である。その独特の明快な文書は、人の魂をゆり動かさずにはおかない。

新しい世界を造る マックス・ブラデック著 20円

炭坑夫であり25年間コミニストとして活躍した彼が語るMRAへの信念の書

世紀の選択 (日本語版) 100円

MRAの世界的な活躍をしめす写真集、現在15ヶ国語に訳され55万部発行されている

MRAニュース 毎月2回発行 1カ年購読料 430円

日本を含めて世界中のMRAの動きを伝える

会場案内人、あるいは下記MRAハウスから、上記ならびにその他の文献をお求め下さい。

東京都港区麻布富士見町19 MRA ハウス